

濕土ニ生得ルトハ云ナガラ、百人ニシテ九十九人如斯也、若一人不勇ノ人アルハ、珍敷事ドモ也、武士之風俗猶以如此ト可知也、雖然無風ニ勇ヲ行フガ故ニ、温和之志ヲ不知ナリ、サレドモ上ト而ハ下ヲ哀ミ、下ト而ハ上ミヲ敬ヒ、主君之爲ニ命ヲ捨ン事ヲ常ニ願ヒテ、志ス事士ヨリ國民ニ至マデ皆如斯ナレバ、百姓町人ト云ヘドモ、義理ヲ強フ、而身ニ難遁罪科有テ、死ニ究ルト知ル時ハ、男女ニ不限致死事、露程モヲシマザル也、音聲ハ卑劣ナリ、風儀ハ信州ニ而智之スクナキ國風ナレドモ、人之一和スルコトハ信州ニコヘタリ、

〔日本鹿子十四〕同國前 肥 中名所之部

川上 佐賀郡のうち也、神所也、緣記草創神社の部に有之、此所北は山也、北より南へ流たる川也、此川上にわれはあれどもとよみしも此所也、

松浦山 是をひれふる山とも云といへり、此山より、五りばかり未申のかたに、呼子といふ所有、此浦里の向に島あり、社もあり、夫婦石とて、松浦さよひめ渡唐船またひし大臣の石となりて御座也、呼子と云所、此島より中間十町計也、定家卿のうたに、

せみのはの衣に秋を松浦かたひれふる山の暮ぞ涼しき

鏡の宮 松浦山のひつじさるのふもと也、北西海也、宮より十町ばかり西に、南より北へ浦へながれ入たる鹽入の大河二瀬あり、松原川また、鏡の渡り、くりや川とも云也、略中

玉島川 浮島との間、一り計の松原也、此川神功皇后の金魚釣給ふ所也、あがり給ふ石いまにあり、此石より三町計の間は、今も鮎をつる也、此川は草野の大村と云所也、

近チカの浦 上松浦のうちに有之、また下松浦に見るめの浦と云有、

未那板原 有明アサキの沖ナギ

名所多有之といへども、在所分明ならざるゆへ除之、